



## 353 + 37 = 1

4月6日、新任式・始業式。新しく10名の先生方を迎え、37名の教職員による“浦島応援団”が結成されました。そして、4月9日、入学式。新しく104名の新入生を迎え、全校生徒353名で新年度がスタートしました。入学式の「入学生点呼」では、学級担任から名前を呼ばれた1年生の元気いっぱいの返事が体育館に響き渡りました。とてもさわやかな気持ちになりました。また、式では、たくさんの方からお祝いの言葉をいただきました。1年生に向けてのメッセージでしたが、2・3年生や私たち大人にも参考になる内容でしたので、その一部を紹介します。なお、裏面にも文部科学大臣からのメッセージを載せています。全校生徒353名と教職員37名が力を合わせ、心を一つに、新たな“浦島伝説”を創り上げていきます。

- ◆ みなさんに一つアドバイスをします。それは、「きちんと考えても分からない場合や不安な場合は、遠慮なく先生方や先輩、そして友達に聞く」ということです。分からないままにしたり、一人で悩んだりする必要はありません。人にもものを訪ねるといことは、勇気を必要とする場合がありますが、聞くことで道が、世界が開けてきます。さらに、人とのコミュニケーションの仕方も身に付きます。その積み重ねが、みなさん一人ひとりを本当の詫間中学校の生徒にしてくれます。いつまでも小学校7年生の児童ではいけません。早く中学校に慣れ、生き生きと活躍してください。（校長式辞）
- ◆ 中学3年間は、小学校と比べるとあっという間に過ぎてしまいます。「今の時間を大事にできない人は、未来の時間もきっと大事にできない」。これは、かつて史上最年少でラグビー日本代表監督になった平尾誠二さんの言葉です。一日一日を大切にすること、そして自分の夢や目標に向かって努力を積み重ねていくことの大切さを示している言葉だと思います。これから皆さんは、いろいろな経験を積んでいきます。「明日からやろう」と言いそうになったときは、「今やろう」と置き換えてみると、何かが変わると思います。そして、根気強く続けることで、次の道は必ず開けてきます。（教育委員会あいさつ）
- ◆ 今日、中学校生活のスタートラインに立った皆さんには、これからの3年間という「時間」を大切に過ごしてもらいたいと思います。「時間」は止まることなく、進み続けています。皆さんがこれから過ごす3年間という「時間」は、誰にも平等に与えられています。しかし、その「時間」をどう使うかで、大きく言えば、皆さんの人生が決まってきます。これからの3年間を充実したものとするためには、小さくてもいいですから「目標」を持ってください。そしてその「目標」を達成するために、今何をしなければならないのかを十分に見すえて、日々努力してください。この「目標」に向かって努力するということが、皆さんの時間を充実したものにしてくれます。ただ、あせる必要は全くありません。失敗しても全く気にすることはありません。長い人生、糧になりこそすれ中学校時代の失敗など何の影響もありません。一歩ずつ着々と歩んでいけばいいのです。（来賓祝辞）

## 発信！それだけじゃない詫間中

香川県のホームページに「うどん県、それだけじゃない香川県」という観光用チャッチフレーズが紹介されています。これを少しアレンジしたものを、学校通信のタイトルの所に載せました。ちなみに、昨年度は“浦島の里から「がんばろう！日本」発信”でした。

詫間町は、浦島伝説として有名な庄内半島があり、粟島、紫雲山などの自然や、映画「きな子～見習い警察犬の物語～」のロケ地などもあります。また、今、体育館横の休耕田が、菜の花プロジェクトで真っ黄色に染まっています。（三豊市のホームページ「みとよHOTほっとNEWS」3月にも載っています）

このように、豊かな自然の中にある中学校として、保護者や地域の人々を元気づけたり癒したりすることができる話題をできるだけたくさん発信していきたいと思います。早速、入学式では、1年生が“さわやかさ”を発信してくれました。

